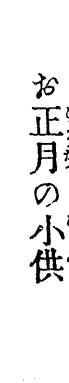
失交々同しからざるが故に頗る注意せさるべからず。

これを要するに嗜好娯樂は人間に免かるべからざるもの、否寧精神の滋養物として必ずあらざるべからざる所のものなり、只其の種類の選擇採定に至りては大に謹まざるべからず即ち高尚なる娯樂は、これを好む人の精神をして高尚ならしめ、卑猥なる遊戯はこれを樂む人をして知らず識らずのうちにおのつから卑下なる情を起さしむ。然るに世人常にいふ只娯樂のみ只遊戯のみと、これを蔑視して毫も顧みる處なし、此の如きは思はざるの甚しきものにして、これかために或は身体を害し、或は不正不義に陷るものあり、娯樂の事又忽にすべからざるを知るべし。



寄書

お正月の小供

西武　みなかもの

鬼は外福は内あゝ！。惡魔をきれいに外に逐ひだして、それから喜んで福を内に迎へるのだ。之は都も鄙も上下通じてお正月の家庭の面白くも可笑くも樂しくも嬉しくもある處である。一体が家庭に於ては笑ふも泣くも喜ぶも怒るも、やつぱり其基はみんな眞實眞味の幸福てはあるが、まして此家庭のお正月に、去年の鬼もにこ〳〵と笑うて禮にくるといふ時、彼等の目には花の色、彼等の耳には鳥の聲、其他には彼等の目と耳とを遮るも

のゝない、その天眞なる、その爛漫なる、且は其無邪氣な小供の天地こそ、誠に一層のお正月の賜であらう。恐らくは吾も人も皆之を屠蘇よりも餅よりも、若しくは又晴着よりもお禮よりも喜ぶ事であるゝ。されば こゝにその天地の一節二節にても伺ひ、それで皆樣と共に此樂しきお正月をお祝ひ申さんかな。

とつちやん！。ねーとつちやん、もう坊は目が覺めたよ。之でやう〳〵十も三つもあしたも寢て起きたのだねー。あれ！。誰かゞ門をたゝく。此早くに誰だらう？。さうだお正月樣だ。坊が戸をあけてやる。とつちやん。坊はもう起るよ。お正月樣が待ち遠ふだからねー……。

ねーちやん。お正月樣はどなたなの。けさ一番早く來たのは東のねぢさんだのに、れ正月樣はいつくるのかしら。獨りでくるの。誰かにれんぶしてくるの。花ちやんか誰かゞあの近所で止めぎりにしてよこさないのではないか。一寸行つて見てこやうかしら……。

ばあやー。私はまだお雜煮なんかは喰べたくはないのよ。いまにお正月樣とお客事して喰べるのねー。お正月樣はおかちんもつてくるつてよ。赤い餅や黃ろい餅を松葉にさしてとんでくるつて。うれしいことねー……。

おぢいさん。お正月樣はもういくつ位になるのです。男ですか。書初を見て誰のを一番はめるでしやう。あの大きい松竹梅ですねー。あれは全く上手だもの。おぢいさん。私はほんとに誰れにも助けて貰ひなんかしないわー……。

かーちやん。あーさひにかがやくひーのまるの

はな。ねー松竹たーて、門毎になの。これから學校でみんなして歌ふのだよ。今日が一番おめでたい日だつてさ。だから今日は學校でみんなしてていねいにお祝ひ申すんだわ。あらかーちやんまた忘れたの。歸つたらおばさんのとこへも、おともだちのとこへもお祝ひに行くんだわね！……。

どんな偏僻の田舍に於ても、小供があれば黄金も玉も何物ぞ。此明治の御世に處しては此樂しみは充分に樂しみ得らるゝのである。（完）

秋田市正月の名物

河井たま子

名物と申したのは正月の行事の一としてかそへられて居る万才をさしたのであります。万才といへばどこの國にも行はれる事でありますが此所に名物といふは他の地方と余程趣がちがつて居るからであります

正月四日五日の頃より廿日ごろまで行はれるのでありますが何所の家でも万才に對する家例があつて日どりも之れによりて一定して居ります或家では四日とか或家では五日とかそれ〳〵まつて居ます其日に万才をよんでそれ〳〵まわするのであります万才をよぶ日はその家の云はゞ新年宴會なので親類縁者を招ぎ酒宴をはるのであります

万才は三河万才と同じく大夫才造の二人が例の裝飾でやつて來るよんだ家ではまづこれを客室の中席位の處にすゑるのである新年宴會の事であるからなるべくは夕方にしたひのであるが万才の方の時間の都合によりそう行かない大抵は万才の方の時間の都合により此方の時間をきめるのでわ